氏名　内藤孝和

学位の種類　医学博士

学位授与番号　乙第23号

学位授与の日付　昭和37年6月6日

学位授与の要件　博士の学位論文提出者
（学位規則第5条第2項該当）

学位論文題目　**細菌感染の骨髄造血機転に及ぼす影響に関する研究**
—主として骨髄組織培養による—

論文審査委員　教授 平木　潔　教授 小坂淳夫　教授 妹尾左知丸

学位論文内容要旨

著者は細菌感染が骨髄造血機転に及ぼす影響を検索する為に，まず緑色連鎖状球菌（0.5 mg/kg 1，4，7，14回），同加熱死菌，溶血性連鎖状球菌，黄色葡萄状球菌（いずれも0.5 mg/kg 4回）白色葡萄状球菌（1.0 mg/kg 4回）を家兎に連日注射して，第1編では各回注射後の骨髄を培養して組織増生を観察し，第2編では同じ経過を追っての骨髄偽好酸球機能の変化を追求した。第3編では亜急性細菌性心内膜炎患者の骨髄培養により，治療前後の組織増生及び好中球機能の変化を観察した。家兎では白血球増多と貧血の進行につれ被覆培養比較成長価と細胞密度は増加し，液体培養で骨髄赤血球，網赤血球，血色素の増加率は低下し，之等変化は緑連菌では1，4，7回注射と漸次増強し，14回後では貧血回復と共に軽減した。死菌では変化は軽く，他の生菌では緑連菌4回注射の場合と大差なかった。骨髄偽好酸球遊走速度は全経過を通じ軽度に亢進したが墨粒貪喰能及び中性紅生体染色性では機能低下を認め緑連菌4，7回注射後に最も著しく，14回後には回復傾向を示した。死菌では変化は軽く，菌種別での著しい差異は認めなかった。患者骨髄では，比較成長価は正常，細胞密度は正常又は減少し，赤血球，網赤血球，血色素の増加率は低下し，好中球墨粒貪喰能と中性紅生体染色性上著明な機能低下を認めたが遊走速度は正常であった。之等の変化は治療により正常化した。

昭和33年4月　第20回日本血液学会に発表
原著は昭和34年8月　岡山医学会雑誌第71巻8の2号に掲載

論文審査の結果の要旨

内藤孝和提出の「細菌感染の骨髄造血機転に及ぼす影響に関する研究—主として骨髄組織培養による—」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

家兎に緑色連鎖状球菌（0.5 mg/kg，14回迄），同加熱死菌，溶血性連鎖状球菌，黄色葡萄状球菌（以上0.5 mg/kg，4回），白色葡萄状球菌（1.0 mg/kg，4回）を連日注射して，各回注射後の骨髄を培養し，又，亜急性細菌性心内膜炎患者の骨髄を培養して治療前後での変化を比較している。家兎では，白血球増多と貧血の進行につれ被覆培養比較成長価と細胞密度は増加し，液体培養で骨髄赤血球，血色素の増加率は低下し，之等変化は緑連菌では7回注射頃最も強く，14回注射後では軽減した。死菌では変化が軽く，他の生菌では緑連菌4回注射の場合と大差がない。骨髄偽好酸球遊走速度は軽度に亢進するが，墨粒貪喰能及び中性紅生体染色性では機能低下があり機能の解離を認め，緑連菌4乃至7回注射頃に最も著しく，14回後には回復傾向を示した。死菌では変化は軽く，菌種別での著しい差異は認められない。

患者骨髄では，比較成長価は正常，細胞密度は正常又は減少し，赤血球，血色素の増加率は低下し，好中球墨粒貪喰能と中性紅生体染色上著明な機能低下を認めたが遊走速度は正常であり，以上の変化は治療により正常化した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せらるべき学力を有すると認める。